

### 第3回 地域振興施設（国府道の駅）進め方検討有識者会議 会議録

#### 日時

平成30年5月22日（火） 午後6時30分～午後8時

#### 場所

徳島市役所本館13階 第二研修室

#### 出席者

14人（委員6人、事務局）

#### 1 開会

#### 2 議題

- (1) 今後の地域振興施設（国府道の駅）の進め方について

##### 【事務局】

平成30年4月1日の人事異動に伴う、職員の紹介。

##### 【委員長】

3回目ということで、前回まで道の駅のあり方について、議論いただき、3つの案に絞るという話になった。それ以外にソフトの施策というか、運営に対するいろんなアイデアをいただき、それについて議論をしたところである。

今回はその3つの整備内容をもう少しつめて説明いただく話と、ソフト施策として考えられるもの、皆様のご意見をいただいたものを整理いただいている。それと、直売所と飲食関係について収支の予測値を出していただいている。

また、市議会さんをご議論していただいているので、説明をお聞きして、今後の方向について議論いただくことになる。まず資料について市から説明を求める。

##### 【事務局】

- 資料1 地域振興施設（国府道の駅）検討有識者会議での議論
- 資料2 地域振興施設（国府道の駅）に係るソフト施策について
- 資料3 地域振興施設（国府道の駅）収支計画報告書（概要版）
- 資料4 徳島市議会での意見

について説明。

【委員長】

以上が今回の資料の説明であるが、ご質問・ご確認したい事項があれば仰っていただきたい。

【A委員】

資料3の収支計画報告書であるが、管理部門に売上収入が計上されているが、どのような内容か。

【事務局】

管理部門の売上収入については、自動販売機のための売上である。

【B委員】

その他の支出の項目はどのような内容か。

【事務局】

その他については、一般管理経費から人件費を除いたものである。

【委員長】

主な項目としては何になるか。

【事務局】

主な項目としては、水道光熱費、修繕費、保険料、消耗品、車両通信費、事務費、リース料などである。

【B委員】

案が3、4、5とあるが、どの案に沿ってシミュレーションしたのか。

【事務局】

これは、現基本計画、現基本設計により整備を進めた場合の案3に沿ってシミュレーションしたものである。

【委員長】

ほかに何かあるか。

まあ、家賃のいらないうところで、こういう商売をして赤字になるっていうこと自体が非常に不思議である。

【A委員】

設備投資や修繕は必要ないのか。

【委員長】

設備投資なし、家賃なしの議論で、光熱費とか管理費ぐらいを支払うだけである。

【B委員】

高く見積もりすぎではないのか。

【委員長】

売上に関しては、年間5億円の売上というのは、道の駅としては、相当大きい。平均2億円ぐらいである。

【B委員】

この赤字の部門が大きいのではないか。

【委員長】

ちょっと人件費をかけすぎでないかという感じはする。もっと少人数でやっていけるのではないかと思う。

【B委員】

管理部門が大きすぎる。

【委員長】

管理部門も含めてそういう感じがする。ただ、今の基本計画でいくと、それぐらいの人が張り付かないと運営できない。

【B委員】

建物が大きすぎるのでは。

【委員長】

建物が大きくて、セクションごとに、その部門ごとに正社員が一人ずついるという考え方である。

【C委員】

営業時間はどうなっているのか。

【事務局】

営業時間については、直売所・販売施設は、360日営業の9時から18時、飲食施設は、11時から17時、軽食施設は、同じく11時から17時、産業振興ギャラリーは、9時から18時の営業時間で設定している。

**【委員長】**

収支計画報告書に関する確認であるが、直売所の場合、交通量の38,000円の単価をかけた数値と、面積の636,000円、結局どちらを採用したのか。

**【事務局】**

少ない方を採用することになるので、交通量により算出した数値である。

**【委員長】**

交通量のほうが少ないのであれば、どれぐらい差がでているのか。

**【事務局】**

2,000万弱ぐらいである。

**【委員長】**

ということは、そんなに差はない。平米60万円くらいは売り上げる想定をしているということ。平米60万円といえば、中堅のスーパーくらいである。イメージとして、コンビニだとその倍ぐらいである。結構流行っていると思う。

交通量の場合は、その道の特性とか、目的地になっているかどうかみたいな話が相当大きい。どれくらい立ち寄ってくれるかという話である。たしか基本計画では1日千数百人くらい来る想定であった。

現在の計画では設計がまずいのか、そのコストがかかりすぎる形になってしまっている。

ただ、売上は60万円と悲観的な数字でなく、どちらかというとな楽観的な数字だと思う。

**【B委員】**

この赤字の産業振興ギャラリーというのは、どうしてももってくる必要があるのか。

**【事務局】**

木工会館には、地場産業振興協会をはじめ、3団体が勤務している。その3団体は移転について、従前から協議はしているが、まだ理解を得られていない。

**【委員長】**

少し反対されているという話しである。今の場所のほうがいい。国府ではちょっと不便になるということか。

ただ、今、積算されている数字は、これぐらい売上があがっているということか。

【事務局】

決算から見ると、ネット販売も含めて、このぐらいの額は売り上げている。

【委員長】

現状の数値か。

【事務局】

現状の数値で試算している。

【委員長】

結局、この管理部門の赤字とギャラリーの赤字、これについては、さっき言ったように指定管理で折り合いをつけなければならない。あとの3つは何とかして、黒に持っていくのが基本である。本当は黒字になって、指定管理料をもち出さなくて済むという方に持っていくのが、道の駅の理想というか、やるべき方向である。

【B委員】

縮小したらガラッと変わるのか。

【委員長】

縮小した場合に変動が考えられるのは人件費である。一番大きいのは、人件費を下げるような方向でレイアウトを考え直す必要がある。お客が多い時は人数を増やして、お客が少ない時はいかに少ない人数でレジを回すかということを検討しなければならない。今の計画では、営業時間中ずっと同じ人数で営業する計算になっている。

【B委員】

産業振興ギャラリーと管理部門はかわらないのではないか。

【委員長】

そういうことになるだろう。

【委員長】

ただ、例えば管理部門と飲食部門を兼ねるようなレイアウトとかもありえるので、管理職の人がずっと常駐する必要があるかどうかである。これだけの大きい施設になると、管理部門だけで、正規職員が2人いて、清掃員と総合案内がいて、正社員はずっといる形になっている。なかなかそんな道の駅はないと思う。

【委員長】

頑張っているところは駅長さんが、直売所の端の実際のチーフになって走り回っている。いかに優秀な人に入ってもらうかが成功するかどうかの鍵と言われている。

【B委員】

来てくれるところは、いくらでもあるような気がするが。

【委員長】

建物の設計がまずいとなかなかうまくいかない。死角になるので、どうしても人を置かないといけない。間に違う施設が入ると当然分けざるを得ない。配置図では、産業振興ギャラリーがど真ん中に入っていて、直売所と管理施設が完全に分断される形になっているので、全部一人ずつ必要となる形になっている。

【委員長】

基本設計がどうかというのと、産業振興ギャラリーの機能をどうするかという決着がつかないまま動いている。産業振興ギャラリーが稼ぎ頭になってくれるのなら、入っていただければいいが。

【B委員】

この前の会議でも議題になったが、予算を削減するのがこの会議の目的だろうと思う。だったら現基本計画による整備、規模は縮小ぐらいしかないと思う。

【委員長】

基本設計を見直すのであれば、かなり見直さないとダメである。例えば駐車場があれば100台いるかとか、もし産業振興ギャラリーがうまくいかなければ、新たな機能として何を考えるのかということは結構重要なと思う。最近の状況としては、もうちょっとしっかり防災機能を見直していただきたいと思っている。あの拠点は道路啓開や様々なボランティア発進基地になる、相当重要な場所になる可能性があり、いざという時に集まれる状態になっているということがすごく重要である。だからレストランの中もオープンフロアにしておけば、そういう場所にすぐ使える。そういう機能をちゃんと目指しておく、大きな駐車場も非常に有効である。

面前の道路は災害時でも、おそらく通行できるから、南に向かっても発進できるし、北からも来れる場所なので、非常に貴重な場所だと思う。そこをもう少ししっかり防災計画の中で見直して位置づけてもらえれば、どういう機能を持たすべきか、かなり明確なものがでてくる可能性があると思っている。

**【B委員】**

私の意見としては、縮小して早期着工をしていただきたい。産業振興ギャラリーを削って予算を縮小したらどうか。だいぶ変わってくるんじゃないかと思う。それに伴って駐車場が広すぎるんじゃないかと言われ、許可がおりないのであれば削るとかも致し方ないのかもしれない。

**【A委員】**

段階取得は現実的な案なのか。法制度とかもあると思うが。

**【事務局】**

事業認定を受ける必要があるが、土地を取得する場合に段階で整備していくというのは認められない。一括で計画し、一度に買うということでない、税制優遇という観点から考えても、事業認定は難しいというのは県から伺っている。

**【委員長】**

今の時点で段階的とは言えない。小さく買って置いて、後から残りを買うのはあり得るのか。用地が足りなくなったから拡張するという話しはあり得るのか。

**【事務局】**

そこまでは、県に確認できていないが、やはり計画と予算の裏付けが必要であるということは県の当局から聞いている。段階的な整備というのは少なくとも難しいと思う。

**【委員長】**

段階的な整備をやるから、例えば今はこれだけしかいらないですけど、ここまでカットしたいという議論は難しいという話しでしょう。

**【事務局】**

そうですね。やはりそこも事業認定を受けれるというのは、面積の確定と申しますか、必要性が認められなければいけない、そういうところの観点から考えるとね。

**【委員長】**

税制優遇を受けられる面積は、必要最小限の面積でなければいけない規定になっている。今の計画の上で必要最小限ということを説明しないとけないということ。

【B委員】

縮小という案でいくなら、駐車場の面積も縮小しないと仕方ない。ゆくゆく、何年か先に駐車場が足らなくなったら、そう言ったらいいんじゃないか。

【D委員】

それが現実的に難しいのだろう。

【B委員】

そりゃ難しいだろうけど、その時の条件による。意外と簡単かもしれない。

【D委員】

今100あるものを50で買って、将来的に増やしていくのは難しい。

【D委員】

市とすれば、結論は縮小は難しいということか。

【事務局】

計画の段階でどれだけの面積が必要かというのを明示する必要があり、その根拠も必要である。

どういう施設を建てて、そのためにこれだけの面積が必要であることを認めてもらうというのが考え方である。将来、広がった時にこれだけの面積が必要であるとなかなか認めてもらうのは難しい。

【D委員】

ということは、現在の基本計画の土地は必要であるということですね。

【事務局】

現在の計画において、駐車場はこれだけ必要であると説明をして現計画の土地を一括で認めてもらうのは可能である。

【C委員】

縮小案は反対ではない。

縮小することによって、費用が抑えられて、木工会館が返事を保留しているというのがあるが、産業振興ギャラリーがあるから飲食・軽食も売上が伸びるということも少なからずあると考えている。産業振興ギャラリーをなくした飲食、軽食、直売所だけの施設しかない道の駅を造るのは基本的に反対である。産業振興ギャラリーに木工会館が入っていただけなのであれば、その代替えとしてどういった候補があるのか。候補がまったく無いのか。ないのであればなんらかを誘致して入ってもらうことを考えなければならない。



**【委員長】**

道の駅としての特徴を考えなければならない。

**【C委員】**

地域振興施設ですから。もちろん飲食、軽食が新たに出来たということで最初は多少喜ぶかもしれないが。それだけ魅力のある、わざわざ立ち寄ろうと思う道の駅かというところとちょっと。

**【委員長】**

大体の道の駅は、どこも目玉を入れている。

**【C委員】**

初年度は話題性があるシミュレーションどおり行ったとしても、翌年度、その翌年度となると、次から次に工夫しないと維持できない。

飲食、軽食、直売所だけではちょっと弱いのかなと思う。

産業振興ギャラリーがあったうえで、駐車場を少し減らして8割程度の規模にするのは反対ではない。でもその8割規模にしても赤字が解消されないのなら意味がない。

**【委員長】**

このシミュレーションは投資額を気にしなくてよいというものである。

使い勝手がいいというところで黒字になるかどうかというところである。

面積を縮小したら黒字になるというものではない。むしろ、維持した方が黒字になる場合もある。

市としてはイニシャルコストが下がった方が整備しやすくなるのでしょけれど。

**【B委員】**

そのために、市議会が問題提起したのでないか。

**【委員長】**

19億というお金がこの施設にとって有効に使えるかどうかという議論である。19億出すのだから、それが市に返ってくるぐらいのシミュレーションが出てほしいというのが市としてのイメージである。

それが、じわじわでもいいから戻ってきますよって、産業が振興されて、農産物が売れて、市としても実入りが上がってくるという、ウインウインの関係が出来て初めてやる価値があるんじゃないかという議論になる。

投資コストを下げたらさらに黒字が出れば、返ってくる年数が少なくてすむっていう議論になる。

これは収益率の話なので、毎年、2000万円返ってくるのであれば、1%

しか返ってこないことになる。

最近3%、4%しか返ってこないっていう事業は山ほどある。

**【D委員】**

他の道の駅で直売所、飲食施設等の売上の比率はどうなっているか。

徳島ですから、野菜等はたくさんある。直売所、飲食の割合を上げた方が採算は採りやすいと思う。

**【事務局】**

直売所の売上の比率がいい道の駅は、71%である。

**【D委員】**

それはどこの道の駅か。

**【事務局】**

千葉県の道の駅である。

**【D委員】**

やっぱり人口が多いとこですね。

**【委員長】**

ただ、売り幅でいうとそれだけはないかもしれない。

そのうちの7割ぐらいかもしれない。

その売り幅をどれだけ取るかも管理者の考え方なので、どういうところが入っているかによって変わってくる。

**【C委員】**

道の駅の特性の営業時間ですが、飲食は夜の方がもうかるというのがある。アルコールが提供できる。利益のことを考えるのであれば、そこまで追求していくか、東京、大阪に行かないと食べられないような店舗を誘致するとか。

**【委員長】**

この設定自体は結構な売上である。

**【委員長】**

全体的な流れとしては、今回、基本設計といわれている配置プランとか、どんな機能をうまく連携させるかってところを含めて、この場合だと指定管理者と言っている人、あるいは場合によってはそういうことをちゃんと包括的に考える人を早めに参加させるって仕掛けを今やっている。

石井町がやろうとしているデザインビルドっていうのもその仕掛けの一つである。実際の民間のなかでデザインをしてもらうんですけど、そこへできるだけ民間で運営する人たちのサウンディングを入れて、ヒアリングしてどういう形で運営したらいいか、デザインを活かせるかたちである。

先進的なオガールというのは、逆に最初から入ってくれる業者を公募して、自分たちで店づくりを決めて設計に入るっていう話である。最初から売上も入れている状態で、あとは建設コストをいかに下げるかである。

【B委員】

この間おっしゃっていたPFIですか。

【委員長】

そうです。PPPの先進的事例と言われている、紫波町のオガールという組織です。

【B委員】

いいんじゃないですか。

【委員長】

みなさんその辺を工夫してやられている。

ここ1、2年ですごく着目されている。

非常にまだ、どうやってそういう形にしていくか、難しいテクニックが出てくる可能性がある。

今、そういう公民連携をやろうという形で、市町村の担当者がいろんなところで勉強をしようとしている。高松などはいろいろなセミナーに派遣されている。

東北芸工大がそういうセミナーを開設している。ただし、半年間で一人50万円かかります。その代り、ノウハウはきっちり教えてくれる。道の駅についてこういう仕掛けをやろうとすると、そのやり方まで指導してもらえて、自分たちでプランを発表して返ってくる。

【B委員】

それで50万円ですか。

【委員長】

考えたら安いと思う。その人にノウハウがつく。

オガールをやった人達と国交省の人やそういうことを指導していた人達が集まってそういうセミナーをやっている。

【委員長】

形を変えたらうまくいってそうではなくて、もっといろんなノウハウがあって、いかに建設コストを下げるか。運営コストを下げるか。売上をどうやって上げるかに絡んでくる。

【A委員】

公共の施設なので、コストダウンには限界がある。

【B委員】

民間に建設を任せたらコストが下がるのではないか。

【B委員】

PPPとかにすればコストが相当下がると思う。

【委員長】

実例としては下がっている。

【B委員】

ただ、心配なのは工期で、いつ決まるのか分からないのは困る。

【委員長】

見直しに関していうと、基本計画から見直せばいいのではという意見が出てくるが、その期間の問題とか。南環状線開通をどう見越すかっていう議論がある。民間の業者を探すにしても、それが見えている時期なのか、見えていない時期なのかによって、民間業者のリスクが変わってくる。そこをどう考えるかという話が出てくる。

今の8千台ぐらいの規模でなんとかやっていくって話で議論する場合もある。

もちろん、それで考えなければ始まらない。それでも、いつ3万台になるのか気になるところである。

【B委員】

8千台のままでいい訳ではない。

【委員長】

日和佐の道の駅は直売所で3億ぐらい売り上げているが、5600台である。

休憩しやすい位置にあるというのは大きい。

ちょっと休憩しやすい場所にあるのは、立ち寄り率が高いと思う。

面積はそんなに大きくないが。

【A委員】

恐らく、通行量に通勤の台数が入ってないのでは。

【委員長】

ちょっとは入っていると思うが。

【E委員】

飲食だけで、論点整理はできないと思う。この道の駅を目的地化するためには、産業振興ギャラリーか、若しくは、そこに特色のあるものを置かなければならない。

となると、規模を縮小するという選択肢はなくなっていくと思われる。加えて、道の駅の売上収益というのは、季節変動がかなりあるのではないかと考える。その季節変動というのは、全体の収益に影響するものであるが、飲食に関しては営業時間と入る店舗によってかなりの差ができると思う。

今のシミュレーションを見ると、飲食部門を17時に閉める前提になっている。仮にレストランは17時に閉めたとしても、軽食も営業時間を17時までとするのは、あまり適切でないような気がする。

まずは現状で進めるということを選択するのであれば、どのようにして収益を上げるかを考えることが必要だ。恐らく、今の世の中、右肩上がりの収益を望むというのは、非常な努力が必要だと思う。初年度は大きな利益が上がっても、2年度以降というものは良くて横ばい、努力を怠ると下がってくる。その中で、いかに新しい仕掛けができるかと考えると、一番大きな役割を持つのは、産業振興ギャラリーの部門だと考える。具体的な提案にまでは至らないが、目的地化するという事は、イコール、産業振興ギャラリーのスペースをどう活かすか、この部分が集客に良い影響を及ぼすことができるかどうか勝負だと思う。

【委員長】

今のこの機能をどういう形で考え直すかということですね。振興ギャラリーってどうか、行ってみたいと思わせるような目玉の施設が何か必要である。

【D委員】

それと、飲食でも何をやるか、ということになれば中々難しい、やはりその指定管理者からの意見を聞いて、シミュレーションしたほうが数字に直接結びつくんじゃないか。ただ漠然と飲食関係に1億4千万といっても、何が1億4千万もあるかと分析すればわかりやすい。

【委員長】

今の段階では、さっきの客単価をかけているだけなので、何をいくらで売っ

て、どれくらい出るっていうふうには全然やってないですよ。普通は飲食屋としては当たり前のように作るメニューリストもないという状態である。

**【D委員】**

野菜なんかの農産市場はたくさんありますから、だからやはりギャラリーと飲食関係と、飲食関係やるのは私達でやれというのは無理ですから、やはりプロの人にこういうふうにやりたいとか、徳島のソウルフードみたいなね、徳島にしかないようなものを安く狙うとか、という意見を聞いて前に向いたほうがやりやすいのじゃないかなと。

**【委員長】**

そういった人達が、本当は施設整備をする前から関わっているかどうかで、やり直しができるかどうかで、全然違ってくる。何が入ってくるかで、キッチンの形から全部違ってくる訳ですから。

**【A委員】**

もう少し具体性のある計画をご用意いただきたい。やはり投資の意思決定とどうか判断するには前提条件がないと難しいと思う。

**【委員長】**

民間ではこんな規模で投資はしない。

**【A委員】**

議会からも白紙案を含めた検討を求められている。ただ検討をするのであれば、前提として収支計画の数値化というのが必須になってくるので、引き続きお願いしたい。

**【委員長】**

建物じゃなくて、ソフトの収支計画から詰めたほうがいいと。

**【委員長】**

作るなら黒字の方向で、うまくいくような収支計画を立てて、それに対して見合う施設でなければいけない。民間だったら当たり前の話しである。

**【C委員】**

私も全く同じ意見である。収支計画に引っ張られる必要はないと言われても、やっぱり赤三角付いて示されては普通に考えてできることではない。けど見直すことによって、大幅に黒字になるのは難しくても、工夫と知恵を出せば、黒字にできないことはないと思う。やはり皆さんの意見と同じで、今のままで

は弱いし、判断をしろと言われても中々難しいとしか言えない。

あの直売所・飲食・軽食、これはもう絶対必須である。さらに産業振興ギャラリーないしはそれに代わるものも必須、だから結局は全てを求めざるを得なくなってしまう。要は赤字を解消するために、例えば、飲食と軽食だけとトイレだけで仮にシミュレーションしたとして、果たして黒字になるかなと考えるとそうではない。やっぱり1か月、2か月すれば人が来なくなって、それをずっと維持していくためには、飲食以外のもので客を寄せられる、お客さんを引っ張ってこられる、何か絶対が必要になってくる、それが何かっていうのが、木工会館さんなのか、それに代わるもので何かだったりするんじゃないかな、と思いますね。飲食のプロではないから、そういう方にも入っていただいて、やっぱり意見を求めるというのも私は大事なかなと、仮にその人が入る、入らないは別にして、その道のプロの人にこれに関する意見を聞くというのも、大事、若しくは、県外でも県内でもいいんですけど、既に別の道の駅にテナントで入られている飲食の方にも意見を聞く、そういうところを含めてやってみないと、この議会で出ている反対はまず覆らないと思いますね。仮にこれが黒字の決算報告書であったとしても、恐らくそう思います。ちょっと厳しい言い方かもしれませんが。是非もう少し考えて頂ければと思う。

#### 【B委員】

皆さんがおっしゃるとおり、私も同意見ですけど、とりあえず指定管理者を先に決定して、それから設計に移るという順番のほうが良いかと思う。

でも、さっきも言いましたとおり、また時間がものすごくかかる訳ですよ、時間と設計経費と、その辺をどう考えるか、あと産直と軽飲食だけでやっていくのは難しいという意見があったけれども、石井にある四季彩とか、小松島のあいさい広場、あそこは産直だけですよ。あいさい広場は今や拡張していますし、四季彩もよくやっていますよね、いつ行っても満車です。やり方によっては出来ないことはない。

#### 【委員長】

産直で悩ましいのは、おっしゃるように、かなり大規模にして、しかも産地を広げて、品ぞろえを広げる。スーパーみたいにしてしまうという方向になっているところもある。実際はそこが売り上げている。小さな規模で地元のやつだけでやると中々厳しかったりする。

#### 【B委員】

そりゃあもう、田舎のスーパーになってしまう。

#### 【委員長】

ただ、あんまりそれをやり過ぎるとただ単にスーパーを作っているだけにな

るので、どうするかという議論になる。地元ならではのものをどう見るかという話になるかと思う。

**【B委員】**

とにかく、地元の要望として早くやってほしい。

**【委員長】**

他に何か追加はありますか。

全然違う視点でこの辺は確認しておいたほうがいいとかありますか。

**【委員長】**

現機能、特に産業振興ギャラリーの果たしていた役割をどうするかが重要だということと、人件費のカットのうえでいうと基本設計から見直す必要があるということ。

場合によっては全体規模の縮小って話が必要になってくるかもしれない。小さくてもいい物を出せばたくさん売り上げるところもあるし、物の出し方によっては。直売所も最近結構大きくないともたないという話が出ていたり、品揃えも良くないと買う機会を失うという施設なので。面積を小さくしたら売上が上がるというものではない。置いておく場所、置いておく施設なので、いろんな特性があるので、そういう事を考えて、もう一度きちっと面積を見直すって議論が当然出てくるかもしれない。

目的地化するための議論であるが、日和佐の場合だと足湯である。そこには温泉があったのでそれを目玉にした。ギャラリーがうまくいかない場合はその見直しが必要であるということ。見直すのもいいが早くやってほしい、あまり停滞してほしくないという話である。

**【B委員】**

陳情書を提出してから10年になる。

**【委員長】**

今回、こういう議論していいものになるのならしっかり見直した方がいいという気持ちがある。

せっかく、見直す機会があるのなら。開通がもう少しかかりそうであり、時間的な余裕があるのであれば、それを目指してしっかり考えた方がいい。

どうされるかについてはもう一度、市の方で、今日のご意見を踏まえて、整理して最終的にどういう形になるか。

案でいくと案5に近いが、基本計画をまったく白紙にするわけではなく、部分的には相当使えるので、これを少し見直すぐらいなので案4と案5の間のイメージである。完全に基本計画をそのまま使う、駐車台数とかそれぞれの面積



規模とかを全然見直さないという議論でもない。産業振興ギャラリーを入れるというのを基本計画に書いてあるが、それを部分的に見直す。それ以外のいろんなコンセプトについてはほぼ使えると思う。新たにという訳ではない。

設計に関しては新たにやらなければならないかもしれないし、部分見直しで、配置だけで済むかもしれない。

今、実施設計は一旦止まっている。見直した上で、設計していただく。本当は基本設計ぐらいから実際に運営を担う方が見えるような形で、仕組みを作っていて、今やろうとしている公的発注の仕組み自体も見直していただきたい。手続きの見直しの話もお願いしたいということです。

今のご意見を踏まえて、市長さんに報告書で提言することになっている。

案についてはきちっとしたものを作って、委員さんには一度ご確認いただいて、時期がきたら市長さんに提出する方向でいきたい。

#### 【事務局】

第3回地域振興施設（国府道の駅）進め方検討有識者会議を終了する。